会長メッセージ

福祉医療施設が果たすべき役割とこれからの歩み

全国福祉医療施設協議会
会長　松川　直道

会員施設の皆様におかれましては、日頃より本会事業へのご理解とご協力を賜り、また、それぞれの地域において福祉医療実践にご尽力いただいておりますことに、心より感謝申しあげます。

近年、物価高騰や社会情勢の変化を背景に、孤立や生きづらさ、住まいや就労など、複雑で多様な生活課題を抱える方々が増えています。こうした中、医療の提供のみならず、地域住民の暮らしに寄り添う福祉医療施設の役割は重要性を増しています。特に無料低額診療事業は、経済的理由で受診をためらう方々が必要な医療につながることを支えるとともに、その背景にある課題を地域の支援へとつなぐ重要な役割を果たしています。

地域共生社会の実現に向け、制度の枠を超えた包括的な支援が求められる今、福祉と医療の双方の機能を持つ私たちの強みが発揮される場面がますます広がっています。支援を必要とする人を待つのではなく、地域に出向いて「声なき声」に耳を傾け、セーフティネットとして誰一人取り残さない地域づくりに貢献していくことが重要です。

この実践を未来へつなぐ場として、令和８年度の全国大会は大阪で開催いたします。会員施設の皆様にはぜひご参加いただき、各地の貴重な実践や知見を共有し合うことにより、ともに支え合う地域づくりの契機としていただきたいと考えております。

変化を続ける社会情勢の中にあっても、これからの福祉医療のあり方を見据えつつ、皆様との連携を深めながら、地域に必要な取り組みをともに進めてまいりたいと存じます。引き続き、ご支援、ご協力のほどお願い申しあげます。